

## 第43回 日本ジオパーク委員会議事録

日時：2021年9月25日(土) 10:00～12:30

ツール：Zoomによるオンライン開催

場所：ちよだプラットフォームスクウェア 504～506 会議室(中田委員長と事務局のみ)

### <委員長>

中田 節也 東京大学名誉教授・防災科学技術研究所火山研究推進センター長

### <副委員長>

宮原 育子 宮城大学名誉教授・宮城学院女子大学現代ビジネス学部教授

### <委員>五十音順

大野 希一 島原半島ジオパーク協議会事務局次長

欠 久保 純子 早稲田大学教育学部教授

黒田 乃生 筑波大学芸術系教授

齋藤 文紀 島根大学研究・学術情報機構エスチュアリー研究センター長・教授

柴尾 智子 元公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU)

菅原 久誠 群馬県立自然史博物館副主幹 (学芸員)

田中 裕一郎 産業技術総合研究所 地質調査総合センター

新名 阿津子 東北公益文科大学 公益学部 准教授

橋詰 潤 新潟県立歴史博物館主任研究員

長谷川 修一 香川大学名誉教授 四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構副機構長  
／危機管理先端教育研究センター長

ヴォウォシェン・ヤゴダ 一般社団法人隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会国際交流員

山口 勝 日本放送協会放送文化研究所主任研究員

渡辺 綱男 自然環境研究センター上級研究員

渡辺 真人 産業技術総合研究所地質情報研究部門・GGN執行委員会委員

### <日本ユネスコ国内委員会>

原文 絵 文部科学省国際統括官付国際統括官補佐

岡本 彩 文部科学省国際統括官付ユネスコ第三係長

### <関係省庁(オブザーバー)> 建制順

柴田 伊廣 文化庁 文化財第二課 文部科学技官

道面 和久 国土交通省 水管理・国土保全局 砂防部 砂防計画課  
地震・火山砂防室 火山対策係長

森田 裕貴 気象庁 地震火山部 火山監視課 火山防災推進室 噴火予知調整係

尾崎 絵美 環境省 自然環境局 国立公園課 国立公園利用推進室 室長補佐

山中 涼太 環境省 自然環境局 国立公園課 国立公園利用推進室 環境専門員

萩野 周 環境省 自然環境局 国立公園課 国立公園利用推進室 エコツーリズム推進員

### <事務局>

斉藤 清一 JGN 事務局長

古澤 加奈 JGN 事務局次長  
甲 健太 JGN 事務局員  
山崎 由貴子 JGN 事務局員  
関村 絢 JGN 事務局員

#### 【開会・委員長あいさつ】

委員長：本日は午前中に3件について審議するが、新型コロナウイルス感染症の第5波がもろに被りなかなか現地調査がうまくいかなかった。緊急事態宣言とまん延防止重点措置発令の合間をぬって現地調査を1件行った。その他はオンラインの結果になる。その分、秋に調査のしわ寄せがいく事になり、年明けに皆さんに複数回オンラインで会議をお願いする事になるかもしれない。

#### 【報告事項】

委員長：国外の状況として、海外の審査は非常に深刻な問題になっていて、ユネスコ世界ジオパークの審査は延び延びになっている。100個くらい審査しなければならないものがあるが、今月からヨーロッパを中心に審査が始まった。12月は次のカウンスルがある時期であるが、その時までには数十個くらいの審査が達成できるのではないかという見通し。ただ、アジアについてはまだ様子見の状態。入国規制がまだ各国バラバラの状態だし、それが緩む気配が今のところないので、ちょっと見通しが立たない状況だと思う。

濟州島で行われる予定のジオパークの国際会議は、1年遅れで12月14日から16日にオンラインで開催することになった。オンラインのため、開催時間が日本時間で18時から22時という非常に参加しにくい時間帯になる。登録料を払わなければならないが、委員の皆さんも都合が合えば是非参加していただいて、世界ではこのような活動をしている、あるいはこのような方向で動いているなどを認識してもらえればと思う。

国際会議はGGNというネットワークが開催する会議になる。そのため、GGNの総会も開かれて、そこで役員の変更も行われる。日本から引き続きメンバーを出せるように努力しているところ。

国内の状況だが、前回も話した日本ジオパーク学術支援連合がいよいよ7月2日に発足した。JGASU（ジェイガス）と呼んでいる。地理学会からも無事に参加していただいている。代表に茨城大学名誉教授の天野さん、副代表に金沢大学の青木さんになっていただいている。天野さんには10月4日に行われる日本ジオパーク全国大会の開会式の中で挨拶をいただくことになっている。ジオパーク議連会長の石破茂さんの挨拶の後に予定されている。

日本地学協会から日本ジオパーク委員会と日本ジオパークネットワークが地学普及功労賞を受賞することになった。11月15日に授賞式があるので、米田理事長と私と事務局が出席する予定。

以上が報告事項になる。追加で報告する事がある方は挙手して発言をお願いしたい。

一同：（発言なし）

委員長：それではみなさん本日はよろしく願います。

#### 【議題① ユネスコ世界ジオパーク審査事前確認：山陰海岸】

委員長：早速、議題①に移る。本日は議題③まであり、特に議題②が時間を取るかもしれないが、まず議題①のユネスコ世界ジオパーク審査事前確認ということで山陰海岸。報告は5分程度、質疑を合わせて20分程度が目安。まず、山陰海岸について報告をお願いします。

委員：山陰海岸 UGGp の現地確認を2人で8月末にオンラインで行った。山陰海岸については、ユネスコからもらった過去のリコメンデーションの対応状況の確認と、これまで行われた現地の進捗、プログレスの良い

ところの確認、その中で出来ていない点や改善を求める点の評価を行った。一部の過去のリコメンデーションの確認を必要とする項目が、現地に行っていないのでまだ評価が出来ていない部分があるが、調査員としては、山陰海岸はきちんと世界に審査を受ける十分な活動をしているという判断をしている。

まず、前回のユネスコの指摘事項の対応状況から。a~iの指摘とリコメンデーションがされており、ほぼ全てよくできている。特にできているのが、組織改編の部分でJGCから連携不足というのが指摘された結果、ゼネラルマネージャーを置いて地域全体の活動が一つの方向に向けて動き始めたというのが非常に大きい点。現地で確認が必要な点というのは、リコメンデーションの中のbで「余部鉄橋の新しいビューポイントの整備」について、前回の世界のリコメンデーションで情報の発信の部分を中心にした方が良いと言われているが、その現地の確認。看板を設置したという事がレポートに書かれているが、実際にガイドが活動されているという事なので実際のその様子を見に行きたい。

それから状況を確認しなければならないと思っているのが、リコメンデーションdの「玄武洞の整備状況とガイドの説明」で、科学的な質の担保を求められるようなリコメンデーションがされているので、一体どのような形で「地球磁場」という目に見えない難しい言葉を伝えているかの現場の確認や、看板の整備状況等を見たいと思う。これはまだ評価が出来ていない。

逆にできていないところ、確認しなくてはいけないところがリコメンデーションのh。パートナーシップを作ってジオパークの活動をしている人達とのオフィシャルな書面のやり取りをした方が良さだろうという事だが、この部分については、進捗として実際にマーケティング戦略というものを今年の3月に作って、それを元に実際に現地で素晴らしい活動をしている人達とのやり取りを進めようと話しているが、既存ですでに10名近く素晴らしい活動をしている人達と繋がっているのに、まだそういうところのオフィシャルなやり取りが不十分。大学との関係はあるが、地域の活動を支える人がまだまだ不十分という事で、ここはさらに加速させるという意味で△をつけている。

評価点をかいつまんで話すと、特に評価される点についてはゼネラルマネージャーの登用によってジオパーク活動のバラバラ感がだいぶなくなってきたと思われる。まだ山陰海岸はバラバラとやっているというイメージをお持ちの方も多いとは思いますが、私たちがお話しを聞いた限りではまとまってきた感があった。組織間の情報共有の部分についても非常に会議等を頑張っており、特に運営委員会と呼ばれるもの、例えば保全、教育や学術研究等、観光系の各お題に特化した委員会を設置して、委員会同士で様々な取り組みをしている。委員会同士の横のやり取りは、他のジオパークではなかなか出来ていない事が非常に良く出来ているので、そういうところをもっと評価しても良いかもしれない。逆にそこをもっと頑張れば、エリア内での情報共有と活動により一体感が出てくる。

それと、その一体感を増す事に貢献した大きな一つに、ジオパークトレイルの開通で、東の京丹後から西の鳥取まで一本のトレイルが繋がった。それを使って様々な活動が地域で展開され、それを横に串刺しにした様なパンフレットや情報の発信が始まっているので、これは今後、経済的な活性化の部分に関しても活躍できるだろう。さらに、女性の活躍の部分。それから実際に兵庫県立大学の学生が地域に入って、そこで職を得たりする仕組みを頑張って作り始めている。非常に持続可能な形での活用が始まっているような印象がある。

改善を求める部分としては、構成自治体の中にも職員がいるが、それと事務局との関係性、さらには地域で様々なガイド活動、保全活動をしている人達がプログレスレポートのメンバー中に全く入ってきていないので、行政だけが仕事をしているだけに見える。それは改善を促した方が良さだろう。実際に現地で頑張っている人をもっと書類の中で見せたほうが良い。

リコメンデーションの部分に関して、中国を中心としたウェブサイト、書きそびれてしまったがパンフレットの整備があまり出来ていない。中国人観光客が多いわりには中国語のマテリアルやウェブサイトの発信

が貧弱なのでそこはちゃんと直していただかないとまずい。

それからパートナーシップに関する戦略の展開は先程お伝えした通り。

あと、バラバラにやっている感をなくすのであれば、ユネスコ世界ジオパークに関するビジョン、理念、そういうものをジオパークに関係する人達がもっときちんと理解して、それを紐づけしたような活動をすべきという点はリコメンドした方が良いと思う。

さらに女性の活躍は現地では行われているが、運営組織の中では非常に見えない状況になっている。ジェンダーバランスが良くないように見える。ここは人事の問題もあるが、行政の方に頑張ってもらいたいと思っている。

私の方からは以上。補足、特に SDGs についてコメントをいただければと思う。

委員：書類上 SDGs の言葉が結構入ってきていて、SDGs の普及をしていると言うような書き方が多いが、何を目的にやっているのか、目的を達成するためのゴールが SDGs の理念と合っているというような説明ではない。なので、その辺りを強化していくというのが今後お伝えしていかなければならない事だと思っている。

委員長：ただいま報告があったが、これを受けて質疑をする。山陰海岸については3月の研修で、主に化石等の販売や運営体制について話しを展開した。その事について進展はあったか。

委員：特にない。計画を作って、それを元に動き始めているのは進捗の部分。ただ、ゼネラルマネージャーが機能し始めている感は非常にある。

問題点はゼネラルマネージャーの言っている事が経済活動や観光を大事にしたいという事だったので、それはあくまでもジオパークの中の活動の一部であって、その活動を通じて地域をどのような姿にしていきたいかというのを考えてほしいという事が調査の冒頭でお伝えしたところ。

委員長：ゼネラルマネージャーは観光畑の出身だからどうしてもそういう見方をしてしまうのだと思う。

他の委員で質問がある方はいるか。

委員：評価される点で、ジオパークトレイルというのを挙げていただいている、報告資料を見ると全線 230km の3府県を繋ぐロングトレイルが整備されて、積極的に活動する動きが出てきているという話をいただいた。山陰海岸ジオパークは非常に東西に広い3府県に跨がる広域のジオパークなので、それをバラバラではなく相互に繋ぐネットワーク作りという意味でとても興味深いと思ったし、上手く活用していけば意義が高まっていくのではないかと感じた。

ロングトレイルは地域に限らず日本全国でロングトレイルの潮流みたいなのが盛り上がりつつあって、公共のロングトレイルや民間主体のロングトレイルが各地で動き始めていて、山陰海岸でこういうロングトレイルとジオパークの上手い連携みたいな例を作っていけば全国にとってもすごい力になるし、世界にアピールできる点にも成り得るのではないかと思った。

委員：環境省の複数のスタッフと横の連携をしているが、ジオパークトレイルという一つのブランドが非常に良い連帯感を生んでいるような気がする。コロナでなかなか集客が出来なくて苦しんでいる面はあるが、トレイルを開通するお祝いのイベントで地域の人がおもてなしをしたりとか、トレイル沿いの清掃活動が広がりとか、非常に良い形で広がりが出てきている。

アフターコロナに向けてどの様なイベントや仕掛けをしていくか。トレイルを歩いた人に割引クーポンを配って地域にお金を落とす仕組みを作ったりなど非常に良く考えて戦略を練っているところ。例えば三陸にも大きなトレイルがあるが、他のジオパークトレイルに通じるようなところの一つの大きなモデルになればと思っている。

委員：ジオパークトレイルの外から見て、実際にレクサスかメルセデスの高級車が山陰海岸ジオパークトレイルを走ってみようというツアーみたいなのをプレミアムでやっていたりして、それを見て CM など商業のベースでも活用されているのだというのを今年になってから感じたので、委員がおっしゃったように山陰の潮風

もそうだし、白山もジオトレイルというのがある。ジオトレイルがジオパークの新たなブランド、ツーリズムの開拓、三密にならない、ちゃんと地元泊まる、ちゃんと自然とふれあうというのが上手く一つの潮流になれば良いなと思った。

それから、報告書でいただいて「そうか」と思ったのが、ジオパークにはなっていないが、日本でチバニアンができて確認できるのが玄武洞なのだというのが改めて報告書を読んで思ったので、そこは大事にして世界に対してアピールした方が良いのではないかと考えて勉強した。

委員：トレイルに関して非常に上手くやっているのはマーケティング戦略という計画もそうだが、経営部会の人たちの中に地元の経済界や銀行の人が入ったりしている。学者や専門員の人だけではなく、それ以外の専門性や分野の方が運営に入っているところが非常に私たちはすごいと思った。そういう人たちの協力があって、地域にお金を落とす仕組みというのをプロの人たちが考えてくれているのが素晴らしいというのが1点。

あと、玄武洞に関しては、委員がおっしゃる通り山陰海岸ユネスコ世界ジオパークの国際的価値を示すジオロジカルサイトで、ここでどの様な解説や説明をされているかというのは現場を見ないといけないと思っている。なので、チバニアンを含め非常に良い取り組みがあるのはもちろん分かってはいるが、茨城大の岡田先生も協力をいただけるとの事だが、協力いただいている成果がどういう形で地域で発信されているところは確認していきたい。持ち越しにはなるが、現場で見た結果を改めてJGCの場で報告したいと思っている。

委員長：ジオパークトレイルは前の審査の時に出来始めていて、活用し始めた成果が見えてきていることだと思う。ジオパークの拠点施設との絡みや、これまで地域ごとにある活発な活動が上手く連携出来ていないというのが大きな問題であったが、それとトレイルが有機的に機能して三次元的に動いているというのはあるのか。

委員：それはある。拠点施設間を繋いでいくような仕掛けを作っていて、そこでの情報発信が上手く、次のトレイルはこんな感じというような良い情報の出し方をしている。

委員：道の駅では東の玄関口という事で意識されていて、道の駅に認定ガイドが常駐している。ジオパークを意識して、ロングトレイルの東の玄関口で西に人を送ったり、両方を繋げたりという仕事をしている。その中でジオパーク初心者も多いという事で、拠点施設の鳴き砂の文化会館を紹介したりして入りやすい形で展開している。拠点施設の繋がりを持ちながらロングトレイルを楽しんでもらうような動きが見られた。なので、始まったばかりだが、横串になって行政の区分でおしまいになってしまうのではなく、トレイルを通じて色々有機的に繋がっていくという動きが見られている。

委員：山陰海岸の課題としては、地域の中の連携の弱さと、もう一つが10年間登場人物が変わっていない問題がある。今回の審査も前回の審査とほぼ同じ登場人物。なので、やっている方の活動はすごく進んできているが、地域的な広がりが見られているのかというところが、山陰海岸の審査の中身を見ているとちょっと疑問に思う。活動の広がりみたいところはいかがか。

委員：玄武洞は変わっていないが、例えば活発にジオパーク活動を継続してこられた女性がコーディネートした宿の女性を中心に活動をしている人たちが、コロナ禍でも女性ターゲット、あるいは地元ターゲットでアウトドア志向のプログラムを提供し、それが結局当たってお客さんが増えたという事例があったりとか、香美の自然学校の人たちも人材育成を始めているので、少しずつではあるが広がりが出てきているのではないかなと思う。少なくとも私は会ったことがない人が今回は何人も出てきて、民間で拠点施設を作って、その展示が非常に良く考えた展示をしたりしている。そういった取り組みは今まで知らなかったもので、私は良かったと思っている。コウノトリが飛んできたので、それを守るために自腹でコウノトリの巣の棟を建てたという人がいたりとか、面白い事をやっている人はいるという事が新しく見えたので、私は新しい流れを感じた。あとは女性の活躍の部分。女性の活躍をもっと増やしてもらいたいと思っている。

委員：冒頭にも聞いたが、前の研修会でも法人化についてあまり検討されていないと思ったが、何も手をつけ

ていないのか。

委員：検討を始めているという動きがある話しは聞いた。それが世界審査までに、聞かれたらで良いという判断ではあるが、少なくとも協議会という形から法人格を持つ運営組織に対して、今後どういう形で運営組織を作っていくかは聞かれる可能性があるのだからちゃんと考えてほしいという事は言っている。ただ、現場は考えていないわけではないという回答。

委員長：報告書はここでは特に細かくは見ないが、これについても意見がある方はいるか。

委員：一つ気になる点がある。リコメンデーション e、中国語の対応だが、英語の書き方では「*perhaps will be useful*」 役立つかもしれないというすごく曖昧な書き方だったので、こちらから整理が出来ていないのはダメというのは個人的に違うと感じていて、何故かと言うと「*perhaps will be useful*」というのは、やっても良いし他の方法があればそれで良いと思うが、審査の時に中国語が他の対応の仕方が示されていたのか。それとも全く着手していない状況なのか。

委員：どうしてそういうリコmendが出てきたのかバックグラウンドがよく分からない。

委員長：私が付き合ったので大体分かる。スペイン人と中国人の方が審査に見えて、その中で中国からの観光客が多いという事に気付いて、それならもっと中国語を整備した方が観光客がもっと集まりますねとコメントをした。中国語も書いているが英語も書いている。だから特に中国語を強化するというリコmendではない。

委員：それならまだ出来ていないところのリストに中国語が出来ていない事を指摘しなくてはいいいのでは。

委員：承知した。

委員：調査員からのリコメンデーションの中で、ジオパークに来ている国籍の方々の事などの属性を見ながらパンフレットやウェブサイトの多言語化について検討した方がよいという事は伝えている。あとはビジョン。どういう国の人たちを呼び込みたいのか等を考えて多言語化していくのが重要。インバウンドの客の国籍の割合を出すのがすごく難しい。施設の一つは中国人と韓国人が多いという結果が出ている。なので、委員長がおっしゃった通り中国人が多い印象がある。なので、確かに委員がおっしゃる通り、強い言い方で進める事はできないと思うが、おすすめとして多く来ている方々の国に多く発信するのが重要だという形で伝えるのが良いかと思う。

委員：ただ、今の山陰海岸のウェブサイト自体が観光客向けのものではないと思う。すでに充実したものを各県が持っていると思うので、そこを活用した方がより効果的ではないかと感じた。

委員：ウェブサイトについては現在整備中。日本語を作って、現在は英語を作っているところ。今後、多言語化も進んでいくと思う。

事務局：多言語化対応の部分は、みなさんがおっしゃっているように、現状を分析して何のニーズがあるかというのを掴んでこう考えたというような事がプログレスレポートに書かれれば良いのかと思う。それからパンフレットである必要性もないのかもしれない。どういう必要があるかという事だと思うので、言語もそうだし、手法もニーズに合わせて対応を進めていくのが相応だと思う。もしそれが見えているのであれば、やっている事を分かりやすく記載してほしいと思う。

もう一つ、通知書の案を今回作っていただいでいて、これはプログレスレポート作成等を急いでいただきたいので、出来るだけ早く今の時点でのアドバイスを通知という事でまとめていただいで、これを確定させて早いうちにお渡ししなければならないという認識をしている。その中で優れている点の一つ目に、一覧表にもある「ゼネラルマネージャー登用による、ジオパーク活動の統一感」だが、問題点でもありおっしゃっていたと思うので、ここが一番に書いていいのかというのと、いつもレスポンシブルツーリズムを進めたいという事をおっしゃっているが、実際に何をやっているかが見えなくて、今回の報告書でもジオツーリズムの成功事例は一部見えるが、全体を通してそこまでの統一感を出せていると言ってしまっても大丈夫なのか。

委員：山陰海岸ジオパークの大きな問題は、良い事をやっているが本当にジオパークのプログラムを理解してやっているかが分からないというところ。なので、そここのところの理解をさらに深めてほしいというのは、リコメンドの中で非常に大きな部分。これは前回は近い事が言われていると思う。それをどういう形で言うか、どうしても包括的な書き方になってしまうので、言われている事の意図がよく分かっていないのかもしれない。ただ、まとまってきたとは言いつつも、ジオパークの大きなプログラムの中に自分はどの位置にいて、自分のやっている活動が目的達成のどの部分に貢献するかというところの全体像が分かるような形にしていかなければならないのはその通り。リコメンドの中では高い部分にはなるが、それをどうやって相手に伝わる様に言えるのか書けるのかはアイデアがほしい。

委員：個々の団体、キーステークホルダーになるような人たちの試みの中では、レスポンシブルツーリズムに係わるツーリズムは展開されている。ただ、事務局もおっしゃったように、それがどの様にジオパーク内に波及しているのかというのが中々見えないというのもあるので、ポイントとしては個々の活動の良い事例というのを伝えていく試みというのを作っていった方がいいかなと感じた。

委員長：改善すべき点にもゼネラルマネージャーの事を書けばよいのではないかと。良い面もあるけれど、こういう面も改善すべきという書き方がいいのではないかと聞いていて思った。その他はあるか。

一同：(発言なし)

委員長：全体の印象としてちゃんとそれなりに対応していて、再審査を受ける準備が整っていると思った。プログレスレポートの中で指摘された事を含めて、特に法人化と化石・鉱物の販売については書かなければならないと思うので、それについても対応しようとしている事をちゃんとプログレスレポートに書いてほしいと思う。

#### 【議題② ユネスコ世界ジオパーク審査事前確認：阿蘇】

委員長：それでは次に議題②の阿蘇について、報告をお願いします。

委員：結論から言うと、現時点で来年のユネスコの再審査を受ける状況ではない。8月9日に2回、合計5日間の調査をオンラインで実施した。最初の8月の調査時点では準備不足が目立ち、審査が難航した。管理運営に関する説明も人によって異なっていた。地質遺産の国際的な価値についても説明がなく、サイトリスト、データベース、地質図、その他遺産目録、リストも準備されていなかった。この調査時点で、ユネスコのクライテリア8項目中の6項目が満たしていない可能性がある事も判明した。

調査員二人は、この状況は危機的状況だと認識して9月3日に委員長、副委員長、事務局と緊急ミーティングを開催した。阿蘇の状況について報告し、今後の対応を協議した。その結果を9月6日のヒアリングの際に協議会会長と、博物館系トップ、阿蘇の事務局に今は危機的状況にあるという事を伝え改善を求めた。9月17日にプログレスレポート、自己評価表A、Bと補足資料、地質解説が再提出された。今回の問題に対する対応方針案やロードマップも併せて示されて、9月20日に説明を受けたところ。しかし、組織運営の抜本的な見直しが行われなかったため、現時点ではユネスコの再審査を受ける状況にはないなという結論に至っている。

最も深刻なのは、阿蘇火山博がジオパークの運営が出来ていない点。2016年から阿蘇火山博にジオパークの管理運営団体事務局を置いているが、前回の日本審査でもスタッフの問題や情報共有の課題が指摘されイエローカードになっている。ユネスコの審査の際にも管理運営や雇用の面で改善勧告を受けている。若干改善されたところもあるが、抜本的な解決にはなっておらず、内部でも十分な意見交換や情報共有が出来ていない事が分かった。

協議会の組織については提出された組織図があるが、実際には運営委員会、幹事会、総会しか開催されていない。総会がシャンシャンで終わるので実質議論できるのが運営委員会と幹事会だけだが、構成メン

バーが全て行政なので民間の意見が事業に反映されていなかった。

スタッフの問題も問題である。特に、若いスタッフの定着率が低く、ジェンダーバランスも欠いている。この点については「個人的理由による離職で問題ない。今回、博物館の雇用に協議会雇用からスタッフを博物館雇用に変えた事によって雇用の安定化を図ったからこの問題はクリアした。」との回答であった。雇用の安定が図られたとはいえ、スタッフにはジオパークと博物館それぞれの業務が課される等の職場問題が発生しており、そのことがジオパーク業務の円滑な遂行を阻害していた。ゆえに、若手スタッフの離職リスクを抱えていて、スタッフの問題を十分に対応されていない事が分かった。

構成自治体のやり取りも十分に出来ていない。今回構成自治体のヒアリングをお願いしたところ、各自治体で素晴らしいSDGsの取り組みがあり、ジオサイトにおけるオーバーツーリズムの問題も発生していたが、それらが全くプログレスレポートに反映されておらず、自治体とも十分な対話が出来ていないということを確認した。

去年、環境省と協力して基本計画を改定し阿蘇ビジョンというものを作ったが、それも協議会の中でほぼ共有されておらず、ヒアリングにおいても基本計画と事業の関係性についての説明がなかった。

特に問題だったのが、ジオ認定商品制度を持っており溶岩プレートのお皿をジオの認定商品として販売推進しているが、その原材料の入手を全く把握しておらず、場合によっては鉱物資源の販売をジオパークが認証して進めている可能性も出てきている。その辺りのマネジメントもきちんと出来ていなかったし、エコツーリズムや文化観光事業など国の制度を色々活用した事業をジオパークの名前で展開しているが、その全体像を全く把握されていなかった。なので、説明が二転三転し十分なものが得られなかったりして、非常に今の阿蘇の管理運営は危機的状況にあると思ひ、調査員としては今受ける状況にないという判断に至った。

委員：まさに委員がおっしゃった通りで、阿蘇火山博物館が運営しているところが一番の問題なような気がする。それは“阿蘇火山博物館の業務＝ジオパークの事務局の業務”というように扱っているのではないか。そういう疑念さえ抱いてしまう。マネジメントの範囲が阿蘇の博物館の目の前の中央火口丘の中だけ、そこだけにフォーカスされている。阿蘇のカルデラ全域、ジオパークのエリアまで意識が及んでいない。それと連携を図ろうという意図を感じられない。せっかく熊本地震というピンチをチャンスに変える機会があるけれど、それも有効的に活用するという意識がない。非常に視野が狭くて、JGN、GGNの貢献もせっかく貢献できるチャンスなのにおざおざ逃しているし、逆に参加しない事によって重要な情報を入手する事ができない。なので、世界の再認定審査が未だにGGNの審査だという認識で改善計画を出しているということで、これではまずいなというのをひしひしと感じた。

委員長：非常に深刻な問題があるというのがだんだんと分かってきた。委員会としては責任を持って審査を受けていただきたいという事と、最悪の場合には日本としてこれはジオパークとして認められないという行動を起こすという事も可能ではある。そういう最終的ゴールもあるが、これは出来るだけ避けて次の審査に出来る限りの準備をして臨めるようにこちらとしてはしたいと考えている。

これに関してご意見をいただきたい。

委員：前回なぜ通ったかと言うと、前は熊本地震からまだ間もなく、阿蘇の神社は崩壊して生々しいままで、そういうものを見せて、そこでやっているガイド協会のガイド活動を見せ、立野峡谷では非常に優秀なガイドがいて、あの頃は防災研修に来る行政の人をたくさん案内していた。それで審査員が感動するみたいな事があって、震災からの復興下駄みたいな、下駄を履いたまま通ったというところもあるのかなと思う。もう辞めてしまったが非常に優秀な方がいて、運営が成り立っているかのように見える活動をしていた。それで、彼女ともう一人の女性の方が地元ときちんと繋いでいて、どんどんその二人で活動を進めていたので、やっているように見えて通ったのかと思う。

もともと難しい。例えばさっきの山陰海岸の例でいくと、ロングトレイルができるとジオパークは受け皿

になる。阿蘇の場合は色々な良いことをいっぱいやっているが、受け皿や協力する機関に良い活動している人とジオパークが結びつかない。長年そうで、そもそも阿蘇でやっている様々な活動自体がそれぞれ独立してやっている感がある。例えば、阿蘇市と南阿蘇村は同じカルデラの中にいるが、地域として阿蘇ジオパークの中で一緒にやるという雰囲気を感じた事が今までない。それが問題。という事を考えると、博物館が全体をまとめる核になるというのはすごく難しいと思う。ではどうしたらよいのかという代案がないので困るが。

最初は、阿蘇デザインセンターという法人があって、そこはまさに阿蘇を一体として何かをしようという法人だった。必ずしもうまくは行ってはなかったが、ただ、今思うと博物館よりは向いていたのではないかなと思うが、今更どうしようもない。

委員長：他ご意見あるか。

委員長：前日も事前に調査員お二人とお話しをさせていただいたし、今日も現地の主だった方たちとの話し合いを含めても、今日でてきた様々な結論や報告書も含めて大変だという事を改めて感じた。世界審査に向けて今すぐ出来ること、ないしはやって欲しいことは特にこの部分というのがあれば、ポイントアウトしていただければいいなと思う。

委員：出来ることは何かというのは、事務局体制のマネジメントをすぐどうのこうのというのはちょっと難しいかなというのが個人的印象。後はサイトリストをちゃんと整備する、そして阿蘇がなぜユネスコ世界ジオパークなのかというのをきちんと説明して、これまでの活動をきちんと整理したそれなりのものはあると思うので、それを見せるしかないのかと。事務局体制というのはすぐにできないと思うので、改善計画を立てるところまでという気がする。

委員：あともう一つ、若手スタッフが調査に登場してから、やり取りがすごくスムーズになった。なので、調査員から「調査中も若い人に任せたらどうか。」というお話しもされていたり、若い人には少し希望が見えているので、出来れば若い人が運営できるような形にもっていけると、来年の世界審査は何とかしのげるのではないかという印象を持っている。世代交代がポイントではないかと思っている。

副委員長：良い取り組みはたくさん出来ているのにごちゃごちゃになって整理が出来ていないという部分を少し整理して見える化をしっかりと、良い部分を見せられるようにしっかりとしていくのも一つの手なのかなと思う。

事務局：事務局からもオブザーバー参加で5日間のうちの1/3くらいご一緒させていただいたが、緊急事態という事で、委員長、副委員長、事務局と調査員のお二人とで緊急会議を開き、その結果を阿蘇にもお伝えした。それに対して改善策が出たのだけれども、十分な改善にはならないだろうという案が出されていて、改善の計画を立てるとおっしゃったが、今回と同じような感じで空振りになりそうな恐れを感じている。

ずっと難しかったと委員が先ほどおっしゃっていたが、この機会を逃すと抜本的に改善するというのがなかなか難しいので、今回はせっきくの機会なので抜本的にどう改善できるかというところをしっかりと受け止めていただく必要がある。それが本当にチャンスであるのではないかなと思う。若い人たちが良い活動をし始めているので、ちゃんと動けるような体制にするにはどうしたらよいのかを地域が考えない限りは変わらないと思うので、来年の審査のために何とかしのぐというレベルの問題ではないと思う。

委員長：深刻さというのは皆さんかなり共有できていて、一筋縄ではいかないという事が分かってきたと思う。だが、審査に臨むに当たり解決策が無い事はない。だけど、それが非常に一時的なものかもしれないという事。ただ、次の審査しのぎのための報告書を作るにしても、今の体制では難しいと思う。何回も提出書類の差し替えをしても変更してほしいというのが全然通じてなかったと思う。そういう意味でも、緊急措置にしてもそれをやるための手立てを考えなければならない気がする。

委員：体制の問題は抜本的に問題にしていかなければならないと皆さんの話しを聞いて感じた。

別の視点で、熊本地震であるとか豪雨災害や色々な災害があって、その災害復興復旧工事というのも結構阿蘇地域で大規模に進められていると思うが、それと地形地質資産、ジオサイトの保全との関係というのは、うまく保全すべきところはしっかり保全される範囲が、行われていく災害復旧工事と保全の調整方針のその辺もしっかり立てて、安全の確保も大事だが、しっかりサイトの保全もなされるような調整の仕組みが設けられるようなところがもう一つ大事な点だと思ったので、その辺も目配りしていただけたら。

委員：報告書にもその点は少し書いてはいるが、事務局にはその意識が全くない。阿蘇火山博物館の目の前の噴煙が一番の関心事で、熊本地震の復興のためにどういう工事がされているのか全然把握されていない。そこも問題。

委員：是非、指摘をお願いしていただけたらと思う。

委員長：日本として、我々が取り下げるという権限はある。ただ、それは避けたいと思っている。良い案がないかどうするか。

委員：最終的には、ユネスコに判断してもらうことになるかと思う。

委員：我々としても現地には行ってない。オンラインでの調査しか出来ていないので、現地を確認して現地で伝えるという事が必要と思っている。ただ、我々が次に現地に行く丸二日の予定をとろうとすると11月になってしまう。それではこの非常事態にはまずいので、10月の早い時期に1日でも現地に行き委員長もご一緒いただければと思う。向こうに直接伝えるという事も必要という気がするがいかか。

委員長：日程が合えば一緒に行っても構わない。それくらい急を要する事だと思う。

事務局：これまでの発言では、人に関わる部分が原因で、そこには触れられないとおっしゃっているが、阿蘇が本当に変わるためには、そういう事もちゃんと協議会の中で共有や議論をしていく、どこに問題があるのか、どうやったら変えられるのかという話しは避けられないと思う。その事を現地で話すのが先だと思うが、それも委員長に期待されての同行という事なのか。まだ現地調査の途中で、いくつか報告されている中には「可能性もある」といった表記もあり、まだ全てを確認されていない段階。なので、今度はそれを確認していただく事になると思う。

先程委員長が言われた通り、結果としては世界の再認定審査に通るようにして行くのが委員会のスタンス。そこをしっかりと埋めていく事が必要だと思う。ただ、原因となる人や組織に係る部分はしっかりと話題にしなければならぬ。それをどういうふうにしてさせるかというところ。そこに委員長に同行してということ求められるのであれば、委員会としても決める必要がある。

委員：それは恐らく行った時に、調査員として発言しても場合によっては形骸化される可能性があるもので、委員会としての重みを持たせたいというのが今回担当する調査員としての思いではある。

何度もやり取りをしても小手先だけの答えばかり返ってきてしまう。改善対策にしても、会議をたくさん開く、JGCとJGN、外からも委員を招いて委員会を開く、スタッフの管理を強化する、そういうものしか出てこない。そこに我々が行ったところで、また同じような話しになるのではないかと思う。そこはやはり、委員会としてちゃんと持っていければと思うので委員長にお願いできればと思うがいかか。

委員長：本人たちがこういう事が実は問題になっているのだという事をちゃんと意識しているのか。

お互いに議論して、私たちはこういう事をやりたいのだけどいつも差し戻されるとか、声が全然通らないとか、面と向かって意見をぶつけ合っているのか。そういう場はきちんとあるのか。下の人は雇用されているので、クビになるかもしれないから発言できないというのは分かるが、問題の所在がきちんと共有されているのかが気になる。

事務局：今回のお二人からの報告の中には、事務局の中から答えてくる内容も人によって違っているとか、誰とは言えないけど自分たちの考えた内容が結果として報告されていないという現状は掴んでいるわけだから、その事はこの報告の中に書いていただいて、その問題について会議を開く。実際に意見が出ているの

に止めている、誰が止めて何が出てこないのか等、風通しが悪くなっている原因はそこで議論してしまえばよいのではないかと思う。その事を事務局、協議会全体、会長や組織を受け持つ博物館も含めて、話題にさせていただいてそこでの判断だと思うが。

今回はその部分を通知書には書いていない。そういうところが原因となる可能性があるというところ、事務局の決裁権者のところで話しが止まっている、もしくはそこで止められている内容等はあまり報告されていないのではないか。

委員：それはなかなか書けないし、憶測では報告書には記載しづらい。普通は書類を送っているだけなのだが、今回は非常に重要な問題なので、委員長が自ら調査員と一緒に説明に行くという形をとる事はできないか考えるがいかがか。

委員長：調査表の中に問題の在り処をきちんと明記していただいたら、それについて私が説明することは可能だと思う。事務局が言ったように、「可能性がある」というような断定をしていない言い方の問題の在り処というのはやっぱり漠然とした言い方に見えるので、それが改善されればいいかなと思うがいかがか。

委員：今の点だが、「可能性がある」と書いているのは人事のところ、断定してしまうと今働いている人が非常に不利になってしまうので、そこは断定せず書いているというところをご理解いただきたい。もう一つ「可能性がある」と書いている部分は、構成市町とちゃんとやり取り出来ていない調査があるので、そこは対話出来ていないと断定してもいいかなと思う。

副委員長：今の議論だと一番の問題は人の問題だが、今回私たちがフォーマットとして使っている通知書の中に、人の問題も含めて並列的に書いてくると、相手がなかなかインパクトを持ってそこが一番大変なのだという意識は持ちにくいと思う。今回は例外的に通知書の他に委員長名で人の問題だけ特出した形での通知文、または問題提起、これからの世界ジオパークの審査に対してここだけは必ず解決する方向を持ってもらわないと難しいのだというレターを付ける形で、通知書にたくさん並列的に挙げられているものよりはここは深刻な問題であるという事を JGC から見える化したような形でレターを出すのも手かなと思った。

委員長：通知書に挙げられていることを優先してやって、どれがポイントか改めて指摘するということか。人事を取り上げるということか。

副委員長：通知書の中に書いてもいいが、特に憂慮されている点としてというところで強調したいと思う。

委員長：特に憂慮する点という見出しで通知書の中にあるのと同じでは。

副委員長：ただ通知書という一つのフォーマットの中に載せているところよりは、例えば委員長が現場に行くかの議論もされているが、これは本当に特別なことだと思う。なので、まずは書面で私たちはこういう認識であるということをもう少し強い形で表明するという手段として、その部分の特出した書面をつけてはいかがかという提案。

委員長：すぐには決められない。

事務局：色々話しを伺う中で問題が人のところにあるということは、お二人の調査の中ではかなり確信に近いような印象を持っているのか。

委員：その通り。

事務局：当事者は自分たちに問題があるという事にはあまり気付いていないのではないか。気付かなければいくら委員会の方から助言をしても改善されないのではないか。

委員：そういった場合、どういう風に言ったらささるか。今回の調査期間中は調査員は何度も何度もトライするが、ずっとずっと跳ね返されてきていて、どういうルートでどう言ったらここは効くのか。

事務局：改善されないという事実があれば、対応を迫られるということになる。まだ、その問題が突きつけられていないのではないか。

全体のニュアンスとして「なかなか上手くいっていない」「このままいけば再認定審査自体をさせない可能

性がある」ということを言っているが、その問題がどこにあるのかというような具体的な話しは出ない。どうい問題があるという事実関係はもっとはっきりさせてもいいのではないかと思う。

事務局：正論とは思うが、地域によって今後持続的にみんなで仲良く話し合った上で進めていくにはどうしたら良いのかというのは、基本地域が決めることだと私は思う。そのために関係者が今の状況をより良く理解するためには、調査担当の委員が先程おっしゃった通り、直接会って伝えるのは早くしないといけないことだと思う。プログレスレポートを次に JGC に提出する期限は 12 月初旬。それを考えると 10 月になったらもう早めに現地に行くというのが具体的に今出来る事かなと先程の意見を聞いていて思う。

委員長：まず通知書をメール審議で、どこに原因があるかきちんと分かる様に記述したいと思う。それを持って 10 月中旬くらいに行ける人、私も行けたら同行するという形で進めてはどうかと思う。この後は、この報告書の文案を少し原因が明らかになるような書き方に変えるということではいかかか。

委員：大変な問題。こういう活動において組織や活動が形骸化していくのはよくある事かもしれないが、一方で一般の人やマスコミから見て、阿蘇がユネスコの審査に落ちるとというのが実際に起きるとしたら、かなりマイナスなインパクトも想定されると思う。そのような事まで関係者、特に上にいらっしゃる方たちの考えが及んでいるのか。

それに関連して、その活動が阿蘇で上手くいっていない時に、一番立ち返る根本的な資料は何なのか。やはり要請の上で動いている事なので、ここに書いてある事と求められている事が現実とは違っているから、そこに遡って改善すべきという上手くいっていない根拠となる根本的な文書が特定されることが重要なのではないかと感じた。

委員長：まさにその通りだが、それはガイドラインそのもの。ガイドラインから逸脱しているのは明らかになっているので、それを改善しようとしてきていないというのが大問題。それを支えるのが対話であって、地域とのコミュニケーションだと思うがそれがなされていないというのが問題の在り処。

不十分だが先程の案で願います。最後に時間が余ればもう一度戻るかもしれないが、この後重要な審議があるのでそれを優先したいと思う。引き続き調査担当委員にはご苦勞をかけるがよろしく願います。

### 【議題③ 日本ジオパーク新規認定審査：土佐清水】

委員長：次の議題に移る。日本ジオパーク新規認定審査、土佐清水について報告をお願いします。

副委員長：現地調査は 8 月 17 日から 20 日まで、新規なので 3 名の調査員で現地へ行った。当日は九州地方から西日本まで豪雨で大変な時期だったが、奇跡的に豪雨の合間をぬって現地調査を実施することが出来た。また、ほぼ予定通りの現場の立ち合いや、インタビューをすることが出来た。

今回の評価結果としては、認定をリコメンドさせていただきたいと思う。主な評価点、改善点を求める点は一覧表に書かれているが、土佐清水に関しては実は 2017 年に最初にジオパークの申請をされている。その際には申請書やその内容に鑑みて行くに及ばずという形になってしまい、翌年にまた新規認定の申請書を提出されている。また、2018 年には現地調査が行われたが、やはりまだジオパークの理念の理解や活動内容が認定するのに足りないということで、認定が見送りとなった。今回は 3 回目ということで、実際に現地調査を実施した。

主な評価点を見ていただきたいが、協議会を始め全体的に関係者のジオパークの理念や目的の理解の共有が大変進んでいて、関係者全体でジオパーク推進に向けて非常に積極的に活動していることが見えたし、優れた取り組みも見ることが出来た。前回の懸案だったジオパークの拠点としては、竜串のビジターセンターは環境省の施設だが、これがオープンして非常に緊密な連携のもと、ジオパークの拠点としてもスタッフを常駐させながら活発な活動を行っていた。

また、非常に良い取り組みとしては、土佐清水ジオの会が 2018 年に現地のジオガイドたちが作った組織

だが、非常にスキルの高いジオガイドをされており、さばツアー等の実際に商品として売れるようなツアーの企画等もされていた。

学校関係者との協働も非常に優れた活動があり、学校の教員と専門員の人たちが協議をしながら学習指導要領に対応した学習プログラムを作ったり、それを実践していたりするところが見られた。

防災関係では、特に地域の郷土史家の皆さんや生涯学習の担当者皆さんと共に自然災害碑の保全等を行い、子供たちの防災学習にも活用している。防災危機管理課との連携で、ジオパークの観点で避難路を再考しているという事例も見られた。

全体的にジオパーク関係者、教育、企業、地域住民の人たちとの関係も良好で、ジオパークに対する期待という声が多く聞こえた。

一方で改善を求める点としては、今回、土佐清水の大きな目玉の一つである地形地質遺産の足摺岬のラパキビ花崗岩、竜串海岸の前弧海盆堆積物の科学的価値の説明があまり可視化されていない。ジオサイトの解説看板やパンフレット等に十分な解説が見られなかった。

あと、ラパキビ花崗岩を見るためには足摺岬の海食崖の所にあるので中々近づけない。一方で、近づける所に解説看板であるとか、その価値を伝えるものがないという事で、やはりジオサイトの整備が必要。2017年から取り組んでいるのでそれなりに看板も整備されてはいるが、案内看板や解説看板の整備が遅れている。国立公園内でもあるので、色んな主体の看板が乱立しているので整理が出来ていない所もあった。以上が早急に整備をして欲しいところ。

後は南海トラフ地震のこと、防災のこと、今まで取り組んできた自然災害碑の様々なデータベースを一般の人たちにどう伝えるかのツールも含めて検討して欲しいという事と、気候変動に関する教育プログラムがまだそんなに目立っていないので、そこら辺を進めて欲しい。

最後に鉱物・鉱石ではないが、これは前回の審査の時にも含まれていたが、宝石さんご漁に関しては、事務局の方から詳しい現状の報告書をいただいた。高知県が主導で採取の管理・制限が年々進められているという事で、採取期間の縮小や採取量の縮小が進められているが、やはりジオパークとしてもこういったことをウォッチしながら自然資源の保護保全を進めて欲しいというところが改善点になった。

長くなってしまったが、以上から今回の評価として認定をリコメンドしたいと思う。

委員：改善点については、例えば、竜串海岸であったりラパキビ花崗岩のところは非常に重要なエリアだと思った。基本的には説明書等はあるが、ネガティブな改善というよりは、ある程度の基準は満たしておりもっとよりアピールできる場所なので、もっとアピールして欲しいという意味の改善策だと思う。他の点も石碑とかをしっかりとやられているので、それをもっと出していけば良いなというポジティブな改善策にまとめていただけたらと思う。

委員長：今の説明に対して質問やコメント等あればお願いします。

委員：竜串のビジターセンターの話があり、国立公園のビジターセンターの整備のスケジュールとジオパークの活動のタイミングがうまく合って、このビジターセンターの開設をきっかけにジオパークの活動と国立公園の活動の連携がかなり深まったのは良かったとお伺いした。箱が出来てそれを活用して利用のプログラムをこれから磨いていくと思うが、国立公園の利用のプログラムとジオパークの利用のプログラムのプログラム間の連携の一つが全国のモデルになれるような展開が出来たらいいなと期待したいと思う。

もう一つ、宝石さんご漁の話して、県が中心になって漁業法の枠組みの中で採取制限をしていると思うが、採取量の推移や宝石さんごの生育状況の推移といったデータが継続的に把握されて、宝石さんごの資源量、生育状況というのが損なわれずに保たれているという事を継続的に確認していける事が大事かと思う。高知県の方で示してもらったデータは、そのようなトレンドが掴めるデータになっているのか。

副委員長：まず竜串のビジターセンターに関しては、ビジターセンターの中に事務局の一部がデスクを構いて

おり、そこでは先程報告したジオの会の中でジオガイドが作った商品の紹介、ジオの紹介やジオガイドの予約の窓口の役割をしたりしている。また、館内の展示の中でも関わり合いながらやっている。

すごく印象的なのは、環境省の自然保護官の人とも連絡が密で、色んな事を相談できるような状態になっているところが大変印象的だった。

宝石さんごに関しては、高知県のほうでとっているデータを事務局でもとることが出来るので、ジオパークとしても問題意識を持ちながらウォッチしていく事を認識していると感じた。

委員長：その他はあるか。

委員：看板の設置についてリコmendがあったが、看板の設置は予算の問題や景観の問題、乱用の問題、作るのも時間がかかるしお金もかかるので、例えば優先順位をつけて計画的に設置して欲しいというようなワークショップがあってもいいのでは。「早急に」と書いてしまうと行政のまじめな人は一気に看板を作って後で直せないという可能性もあるので、予算や優先順位をつけて計画的にというような形のコメントはいかがか。

副委員長：予算については首長さんのヒアリングの時にも、今回ジオパークの看板をかなり早急に整備して欲しいという話しをして、それに対しての予算付けも大丈夫か？という問いかけをして、やりますというふうにはおっしゃって下さったので、委員がおっしゃった通り、予算に応じたような形で出来るだけ早急という形。

後は優先順位。実際、ジオパークでの最新の案内看板はすでに竜串海岸の入り口の所に整備されている。サインも一新して、非常にハイセンスなデザインの看板があった。そういったテイストで各ジオサイトをこれから整備されていくと思うので、それに関しては優先順位を考えながらという事でこのリコmendには記載を加えていきたいと思う。

委員：おそらくセンスの良い人がいるのでデザインの問題はないが、お金がかかるので持続できるような形というのが私の願い。

事務局：今のところに関連して、通知書が早急に着手ないし改善すべき課題があった場合に備えて、様式として残していたが、緊急性がそんなに高くなければ認定の場合は1年以内でなかったりもするので、その辺りを含めて最後に調整していただければと思う。

副委員長：ここのフォームに関しては、書き方としては出来るだけ早く解決すべき課題というところへ移すということではよいか。特に1年以内というのは難しい部分もあると思う。

オブザーバー：オブザーバーだが、発言してよいか。

委員長：願います。

オブザーバー：ラパキビ花崗岩と前弧海盆堆積物についてだが、専門用語の取り扱いについて過去に何度も申請書類やパンフレット、現地で見せられた看板の案のようところに、専門用語に寄った形で説明する傾向が非常に強かったのを覚えている。なので、専門用語をなるべく使わないで解説するようにという事は現地で説明をしていたし、コミュニケーションはやってきたが、おそらくそう言った背景もありこう言った言葉を敢えて使わないという事を選択されていたのではないかと推測する。こう言った価値について伝えていくには非常に重要なことだと思うし、今の土佐清水の体制を考えると、噛み砕いて説明する力はあるので、おそらくそういう背景があると分かった上で指摘するとよいと思う。

委員：その点について私も同感で、地質の専門員の方、顧問になっている高知大の先生と、その点について現地で話しをした。私たちが言いたいのは、今ご指摘されたエリアは、国内・世界的にも非常に有数のエリアなので、そこを上手く表現できることをやりましょうという事で、確かに地質学的には前弧海盆や花崗岩と言った方が簡単で良いが、それよりは今言ったようなところを前に出していく工夫はできないか？という問いに「分かりました。」という事なので、構想も色々聞いているし、そういう形で指導できればと思っている。

副委員長：実際に竜串海岸のほうでジオガイドに海岸の特徴を説明していただいた。前弧海盆堆積物と言った

難しい言葉は使わず、非常に上手に竜串の地形の成り立ちを説明していた。一般の方に対して、分かりやすく説明するという配慮についてはジオパーク全体で心がけているという事が分かった。

委員長：時間の都合もあるので、この辺でまとめたいと思う。細かい指摘があったが、全体的に考えて、この地域の新規認定に反対の方はいらっしゃるか。

一同：(発言なし)

委員長：賛成の方は手を挙げていただければ。

一同：(挙手)

委員長：それでは土佐清水はジオパークに認定とする。

#### 【記者発表資料作成】

※プレスリリース資料の文面を確認

#### 【その他確認事項（今年度の委員会予定等）】

事務局：次回の第44回JGCは1月28日(金)、翌日の1月29日(土)が審査基準検討会で決定をさせていただいているが、今回、五島列島と十勝岳の現地調査がまだ出来ていないという事で、審議対象地域が日本ジオパーク再認定審査地域11地域+2地域の合計13地域となる。今年も昨年度のように追加でオンラインでの審議時間をこれから調整させていただきたいと考えている。

また、前回の第42回JGC議事録は皆さんに今確認をさせていただいているので、何かあればメールで連絡をいただければと思う。来週には公開する予定。

JGC主催の事前相談会をいつも全国大会のスケジュールに合わせて開催しているが、今年は全国大会がオンライン化されたという事もあり、10月3日(日)の10時から12時のオンラインで開催する。今のところ申し込み地域が、ユネスコ世界ジオパーク国内申請の説明を主に聞きたいという地域が3地域すでに申し込み済。南紀熊野、桜島・錦江湾、鳥海山・飛島の3地域。これはまだ受付中なのでもう少し増える可能性がある。日本の方は今のところ蔵王の1地域のみとなっている。

委員長：その他はあるか。

事務局：JGN事務局からだが、日本ジオパークネットワークで行っているJGN表彰、グッドプラクティスという事で、現地調査を行った委員の皆さんからご紹介をいただいて、その中からJGNの理事会で決定された2地域をオンライン開催の全国大会の中で表彰させていただく。伊豆大島と立山黒部の2地域にJGN表彰を行う事になった。ご協力をいただいて感謝する。

委員長：JGN表彰が今度の10月4日(月)の全国大会で表彰される事でよいか。

事務局：はい。

委員長：今後考えておかなければいけない事についてコメントする。

JGCの事務局がJGNの事務局と兼ねているわけだが、非常に私たちにとって便利ではあるが悪い面もある。悪い面というのは、審査される側である地域の集まりがネットワークなわけだが、そこにこの委員会の事務局があるというのはやはり外目にはおかしいと思う。地域からは実質的な活動を阻害しているように見られる可能性もあるので、あるいは言い方を変えると規律違反にも見えてしまうのではないかという課題がある。将来的には、この委員会はネットワークと独立したものになるのが理想的だと思う。今すぐどうこうしようというわけではないが、そういう事を将来考えていく必要がある。

もともとJGNの事務局が手を挙げて、文科省から委託費をもらって委員会を運営していただいているものもあるが、会則上、委員会が事務局を決めることが出来る事になっている。独立して作るといっても資金があるわけでもないが、この事についても今後考えていかなければならない。とにかくこの委員会が主体となっ

て事務局の設置を考える時期になってきている。これはコメントだけで、これ以上の提案があるわけではない。

今日は特に阿蘇について長く議論したが、若干時間があるがどうするか。簡単にコメントだけいただいて、それを反映して、こちらで最終的な落としどころを考えたいと思う。発言されていない方で意見がある方がいればお願いしたい。

一同：(発言なし)

委員長：これで午前中の会議を締めたいと思う。引き続き午後は事前情報共有会があるわけだが、調査員でない方はこれで退室という形になる。聞いていただく分には全然構わないが義務はない。関係省庁のオブザーバーの方もこれで閉会となる。

本日の予定だが、共有会の後に16時10分から土佐清水に連絡をすることになっている。16時20分からプレス発表を行う。16時50分に全体が終わるという形になっている。

本日はありがとうございました。